

ニツ沼総合公園 ふれあいフェスタを開催



↑多くの親子連れで賑わった会場

4月28日、ニツ沼総合公園ふれあいフェスタをニツ沼総合公園で開催しました。バルーンアーティストや戦隊ヒーローショーなどのステージパフォーマンス、マルバツクイズなどが繰り広げられ、多くの親子連れで賑わいました。軽食や雑貨を販売する出店には長い列ができていました。また、パークゴルフのホールインワン大会もあり、公園内には子どもたちの元気な声が響きました。チアダンスショーでは一般参加者が一緒に踊るなどして、会場を盛り上げました。

春の全国交通安全運動がスタート



↑立哨活動を行う町職員ら

令和元年5月13日、春の全国交通安全運動がスタートし、遠藤町長をはじめとする町職員が横断幕や一文字看板などを持って役場前の国道6号線で立哨活動を行い、交通安全の啓発を行いました。

毎年、春と秋の全国交通安全運動週間中は、町の管理職が立哨活動を実施していましたが、町民の帰還率が高まっていることなどから、安心・安全な町を目指すため、町職員全員が13日と20日の2日間に分かれて立哨を行うこととしたものです。春の全国交通安全運動は今年20日まで実施されます。

広野駅東側第2期開発（住宅用地） 整備事業の推進に関する協定式



↑締結式の様子

4月23日、広野町はパナソニックホームズ（株）と広野駅東側第2期開発（住宅用地）整備事業の推進に関する協定を締結し、遠藤町長と同社の三宅悟執行役員が協定書に署名、調印しました。遠藤町長は、「現役世代や子育て世代に支持される住宅地を造成し、まちづくりの展望を図っていきたい。」と述べました。この協定は、東日本大震災および原子力事故以後、双葉地域周辺において住宅用地を確保することが困難で、住宅需要も継続して高い状況になっていることから新たに住宅用地および住宅を整備するものです。

広野町健康福祉手帳作成事業 検討委員委嘱状交付



↑遠藤町長から委嘱状の交付を受ける委員ら

4月22日、広野町役場において、広野町健康福祉手帳作成事業検討委員に委嘱状を交付しました。遠藤町長が委員22人に委嘱状を手渡し、「福祉のまちづくりに向け、地域包括ケアシステムの確立を図ります。」と挨拶を述べました。町は委員会の検討内容をもとに町民の健康増進に向け、糖尿病や認知症の有無などを記入できる独自の手帳を作成し、9月の敬老会などで配布する予定です。

新天皇即位、改元記念植樹



↑万葉集歌碑前で植樹する関係者ら

令和元年5月1日、新天皇即位並びに新元号「令和」を記念し、令和の典拠が万葉集に収められた梅の花にまつわる歌の序文であることから、万葉集の和歌に詠まれた場所とされている町内ニツ沼にある万葉集歌碑前に梅の木を植樹しました。植樹は、遠藤智町長、黒田政徳議会議員、来賓の吉野正芳衆議院議員により行われました。遠藤町長は、「双葉地方が心を寄せ合い、復興に向かっていく希望の時代にしたい。」と話しました。

広野町子ども・子育て支援会議委員 委嘱状交付



↑委嘱状交付の様子

令和元年5月8日、広野町役場において、広野町子ども・子育て支援会議委員11人に委嘱状を交付しました。同会議は児童の保護者や学識経験者らで構成されており、子どもや子育て世代にとってより暮らしやすい町を目指し、子育て支援に関する事業についてニーズに合った効果的、効率的な運用を図るために設置されました。「町子ども・子育て支援事業計画」の策定に向けた審議なども行います。遠藤町長が委員一人一人に委嘱状を手渡しました。

行政区長会議を開催



↑行政区長会議の様子

4月26日、広野町中央体育館で行政区長会議を開催しました。会議では平成31年度の町の重点事業説明が行われたほか、区長から集会所の維持管理、駅東側ロータリーへのベンチ設置、回覧文書の軽量化、ペット（犬、猫）の飼育マナーなどについて活発な質問や要望がありました。これらに対して担当課長がそれぞれ回答し、議論が交わされました。併せて、地上デジタル放送の映りが悪い地区への「デジサポ福島」の無償支援制度の説明も行われました。

戸敷正宮崎市長を表敬訪問



↑表敬訪問を受ける戸敷市長（写真中央）

遠藤町長は、令和元年5月10日、宮崎県宮崎市の戸敷正市長を表敬訪問し、平成24年4月から平成31年度まで広野町への11名の職員派遣に対し御礼の言葉を述べました。その後、広野町、双葉郡内の復興の現状についても紹介しました。

戸敷市長は、「派遣した職員は、広野町で経験したことを業務に活かしている。宮崎市は口蹄疫の被害で苦しみました。東日本大震災、原発事故での被災者の苦しみは察するに余ります。広野町とは今後もつながりを持っていきたい。」と述べられました。